

**日本塑性加工学会・日本鍛圧機械工業会 産学連携企画  
(第 80 回塑性加工技術フォーラム)**

**「板材成形技術の最前線」**

日 時：2019 年 7 月 5 日 (金) 13:00～19:00

会 場：機械振興会館 ホール (地下 2 階) [東京都港区芝公園 3 丁目 5 番 8 号 電話(03)3432-4804]

交 通：東京メトロ日比谷線 神谷町駅より徒歩約 8 分 (アクセスマップ：<http://www.jspmi.or.jp/about/access.html>)

主 催：日本塑性加工学会・日本鍛圧機械工業会

協 賛：日本機械学会, 日本材料学会, 日本鉄鋼協会, 日本金属学会, 軽金属学会, 精密工学会, 自動車技術会, 日本金属プレス工業協会, 素形材センター, 日本金型工業会

趣 旨：本フォーラムは、日本鍛圧機械工業会と当学会の共催による企画行事です。今回はその第 3 回として、板材成形の基礎から応用、シミュレーション技術や金型技術に至るまでの最新の動向を幅広く議論します。さらに、産学連携のすすめ方についても議論し、塑性加工技術の研究開発に関して産学連携を深めることのできるフォーラムとなっています。講演会終了後に、講演者や参加者同士の情報交換とネットワークづくりのための懇親会 (参加費無料) を行います。

プログラム：開会の辞 (13:00～13:10)

日本塑性加工学会産学連携委員長

桑原 利彦君

日本鍛圧機械工業会専務理事

中右 豊君

茨城大学

小林 純也君

司 会

時 間	内 容	講 師
13:10～13:50	<b>総論：板材成形の現状と将来への展開</b> ：高張力鋼板, アルミニウム合金板, マグネシウム合金板, チタン板のプレス成形の現状を説明するとともに, ホットスタンピング, 板鍛造, 塑性接合などの新しい加工法についても解説する。	豊橋技術科学大学 森 謙一郎 君
13:50～14:30	<b>板成形における潤滑技術の最前線</b> ：これからの潤滑油・潤滑技術の開発では, より厳しい加工への対応や新素材を含めた難加工材への対応を迫られつつ環境負荷低減への配慮も求められる。その開発の最前線を紹介する。	元湘南工科大学 片岡 征二 君
14:30～15:10	<b>高張力鋼板の冷間プレス成形技術</b> ：高強度鋼板の冷間プレス成形で課題となる割れやしわの抑制工法と, スプリングバックを制御する寸法精度対策工法を, 自動車部品の試作例を交えて紹介する。	JFE スチール(株) 澄川 智史 君
15:10～15:20	休 憩	
15:20～16:00	<b>材料特性計測におけるサーボプレスの活用および不具合検出技術</b> ：鋼板のプレス成形シミュレーションをする時に必要となる引張特性等の計測に関してサーボプレスを使用した計測方法とその結果について述べる。また, 日本鍛圧機械工業会と日本塑性加工学会で進めている産学連携で取り組み中の油のニオイ計測等の概要を紹介する。	日本大学 高橋 進 君
16:00～16:40	<b>自動車部品におけるプレス成形シミュレーションの活用と今後の取り組み</b> ：プレス成形シミュレーションは近年, 成形性の予測だけでなく寸法精度・面品質の予測など多岐にわたっている。これらの成形シミュレーションの適用状況, 並びにこれまで開発してきた CAE 関連の技術や今後の動向を実例を交えながら紹介をする。	トヨタ自動車(株) 一条 尚樹 君
16:40～17:20	<b>岐阜大学スマート金型開発拠点における産学共同研究</b> ：岐阜大学では 2006 年に金型センターを設置し, 産学連携でものづくり分野の教育, 研究を展開してきた。本講演では 2018 年に開始したスマート金型に関する産学連携の仕組みと研究事例を紹介する。	岐阜大学 王 志剛 君
17:20～17:25	閉会	
17:30～19:00	懇親会 (会場：機械振興会館 研修 2)	

定 員：講演150名, 懇親会100名 (定員になり次第締切ります)

参 加 費：日本鍛圧機械工業会会員企業は、無料。

テキスト：当日レジュメを配付いたします (レジュメ配布無しの講演もごさいます)

申込方法：別添の「板材成形技術の最前線」参加申込書 (日鍛工会員用) にご記入の上、メール添付でお申込み下さい。

懇 親 会：参加費無料 (講師、参加者と直接にお話出来る絶好の場です。多くのご参加をお待ちしております)

注 意：講演中の撮影・録音は禁止します。